

皆さん、こんばんは。本日はこのくそ暑い時に、もろともせずにごようにお集まりいただき、大変  
光栄に思っております。（\*この後、福島県での講演会案内。開催終了にて省略）

（講演会の音楽ゲストの）久米小百合（くめ さゆり）さん、知らない人は全然知らないと思いますが、  
私の学生時代に大ヒットを飛ばし、まさに一世を風靡するような名曲を打ち出して、ミリオンセラ  
ーのトップ歌手になった方。その時の芸名は久保田早紀（くぼた さき）さん。『異邦人』ですよ。  
三洋電機のCMにも使われました。今でもこの曲はすごく人気で、YouTube を調べたら、昔『夜の  
ヒットスタジオ』とかの番組で彼女が『異邦人』を歌っているのがあって、再生回数 1300 万回！  
日本の YouTube のコンテンツの中で 1000 万回超えるってほとんどない。  
オリエンタルなメロディーで、私も青春時代を懐かしく思い出していました。

彼女は芸能活動を 5 年間やってスパッとやめたんです。そしてクリスチャンになって、昔の芸名も  
スパッと切って本名でやる。現在はゴスペル・ミュージックを歌いながらキリストを紹介しています。  
が、ゴスペルシンガーと言わない。音楽伝道者・音楽宣教師と名乗っています。  
私は今 言葉でキリストのことを伝えていますが、彼女は「音楽でキリストを伝えたい。」

音楽には本当に不思議なものがあって、脳の故障で言葉が出て来ない失語症の人でも、歌う時だけ  
はスラスラ言葉が出て来ることがあるんですね。歌というのには特別な力があるなと思います。  
その歌の力も借りながら、キリストのことを宣べ伝えたい。  
クリスチャンじゃない芸能人の時、歌う目的は自分が注目されることでした。プロですから、売れ  
てなんぼの世界ですからね。  
でも今の目的は、私が注目されることではなく、私を贖ってくださったキリストに人々の注目が行  
きますように、ということ。そのように活動されています。

ところで、彼女が歌で伝えているキリストはどんなキリストなのか。  
私たちの罪を赦すために来てくださったキリストです。  
私たちの罪を赦すために、十字架に掛かって死ぬために来てくださった方。

今日 35 回目のざっくり黙示録で紹介するキリストは、罪の赦しのために来られるキリストではな  
く、罪の裁きのために来られるキリストです。  
この世界を不当占拠しているサタン・反キリスト・偽預言者、そして、その一派に協力する世界中の  
人間を裁くために来られる裁き主としてのキリスト。

なぜ裁き主としてのキリストが必要なのか。最初に言いますと、キリストは 3 回来られるんです。  
1 回目は今から約 2000 年前、クリスマスですよ。ユダヤの田舎のベツレヘムの家畜小屋。  
処女降誕で生まれてくださったイエス・キリスト。私たちの罪を償うために来てくださったキリスト。  
初臨と言います。初めてこの世界に臨まれたので初臨のキリストです。

2 回目は携挙のために空中再臨するキリスト。携挙はクリスチャンたちを空中に一気に携え上げることです。空中再臨とも言われますが、いつあるんでしょうか。分かりません。この講演会の最中の可能性があります。しかし、10 年後かもしれません。いつなのか聖書は語っていません。だれも分からない。でも必ず来ます。だから携挙になったら、私たちは皆さんに、もう聖書の話をして直接できなくなります。私たちはそれを信じているし、それを分かっているので、YouTube で録画しておきます。私たちがいる間に決心することのない方は、ぜひ続きを見て、よくよくお考えになってください。

3 回目は地上再臨のキリスト。艱難時代 7 年目の最終日に来られるキリスト。なぜキリストは艱難時代に地上に来られるのか。早い話、艱難時代を終わらせるためです。では、艱難時代を終わらせるとはどういうことなのか。

これを考えている時、1 つの作品を思い出しました。ユダヤ人作家のエリ・ヴィーゼル (1928-2016) をご存知ですか。ノーベル平和賞の受賞者です。彼はハンガリーの正統派の家に生まれたユダヤ人で、少年時代から旧約聖書・トーラー・カバラ、色んなものをバンバン暗記して、ユダヤ人の中のユダヤ人みたいな教育を受けました。

15 歳の時にナチスがやって来て、彼の家族を全員、アウシュビッツ強制収容所に放り込みました。お母さんと妹は、アウシュビッツのガス室に送り込まれて殺されてしまいます。それからブーヘンヴァルト強制収容所に移動させられますが、その時父親も死にます。父・母・妹を収容所で失った。その地獄のような収容所生活、15 歳から解放されるまでの間に経験したことを体験談として本にしたんですね。タイトルは『夜』。闇の世界。『夜』はみずす書房から出ています。非常に良い本なので、お読みになることをお勧めします。

収容所に入れられていた時、公開処刑が行われました。囚人 (ユダヤ人) たちがみな集められ、真ん中の台を注目するように取り囲みます。大人 2 人と少年 1 人が椅子の上に立ち、その首にロープが巻かれます。椅子をバンと倒したら吊るされる。絞首刑ですよ。

小さな少年の首にもロープが結わえられた時、15 歳のエリ・ヴィーゼルの後ろから、だれが言ったのかよく分からないけど、同じ囚人のユダヤ人が小さな声でこう言ったんですね。「神はどこにいるんだ？ 神はこの現場を見ておられるはずだ。なんで助けないんだ？ 神はどこにいるんだ?!」

やがて所長が合図をすると、椅子がバンと倒され、3 人が吊るされた。ぶら～ぶら～と。何とも言えない沈黙。そして、みんなそこで泣くんですね。その時にまたエリ・ヴィーゼルの後ろで、「神はどこにいるんだ？ なぜこれを放ったらかしにされるんだ？ 神はどこにもいないのか！」

その時、エリ・ヴィーゼルの心に別の言葉が響いて来たんです。「神はどこに居るかって？ 神はここにおられる。神は苦しむ者と共におられる。神は今 吊るされておられる。」

彼がどういう意味でその言葉を書いたのか、私は分かりません。

「苦しむ者と共にいる神がおられるのだ。」

ユダヤ教の考え方の1つとして、そういうものがあつたのかもしれない。

でも、彼の作品はたくさんありますが、それらのテーマは「神よ、なぜあなたは沈黙しておられるのですか。こんなにムチャクチャなことが横行しているのに。このムチャクチャな人間の歴史を、いい加減にストップしてくれませんか。なぜあなたは何もしないで、ただご覧になっているだけなんですか。」

また、最近読んだ本で『戦争は女の顔をしていない』。これもまた名作ですよ。

ベラルーシの女流作家 アレクシエーヴィッチが書いた実話です。

第二次世界大戦の時、独ソ戦といってナチスドイツとソ連が戦争し、ソ連の兵士がたくさん戦死しました。兵士不足になって、スターリンはソ連の若い女性たちに「おまえらも兵隊になれ。」

100万人以上の若い女性たちがソ連軍兵士として送り込まれたんです。

もちろん、その中には衛生兵とかドクターもいますが、狙撃兵や最前線でゲリラ戦をするような兵士たち。女性ですよ。

戦争が終わって彼女たちはソ連に帰って来ましたが、戦争中にあったこと、みんなが口をつぐむんですね。帰国した時冷遇されたんです。特に西側に捕虜になって解放され、ソ連に戻って来た兵士たちは一番酷い目に遭いました。スターリンはこう考えたんです。

「文明が発達している西側の自由な所で捕虜になったら、西側の世界の方がソ連よりも進んでいるのが分かっている。そんな奴らが帰国したら謀反をおこすかもしれん。」

国のために戦い捕虜になって帰国した人たちは、みんなシベリア送りですよ。

これが無神論・共産主義の現実です。

帰って来た女性兵士 500人以上にインタビューし、彼女の意見はほとんど差し挟まず、実際に戦争を体験した女性たちの独白というか、インタビューの内容を組み合わせずーっと続く。

ある衛生兵の指導教官だった女性兵士は、最前線で負傷したソ連兵を看病するのですが、ナチスドイツがどんどん迫って来る。このままでは背負って逃げることもできない。それで一旦、彼らを置き去りにして安全圏まで下がりました。

ナチスドイツが過ぎて行ったので元に戻ると、自分たちが看病していた負傷兵たちの目がくり抜かれたり、腹が切り裂かれて内臓が飛び出していたり、もうめちゃくちゃ。

それを読みながら行間から出て来る叫びは、「神よ、なぜこれを止めてくださらなかったのですか！」

「人類歴史の中で行われていることはなんと醜い。なんと汚い。なんと獣のような。恐ろしい。

墮落と悪に向かって行くこの人類の歴史を、だれかストップしてくれないか！」という叫び。

確かに、神は苦しむ者と共に悲しんでおられる。でも、ずっと悲しんでおられるだけですか。

いいえ。止めに来られます。

今までの人類歴史のどんな戦争犯罪よりも恐ろしいことが7年間続きます。これが艱難時代です。

特に艱難時代の後半3年半は反キリストが世界に君臨するので、7年間のちょうど中間時点でイスラエルは滅びます。イスラエルにユダヤ人はほとんどいなくなります。皆ヨルダンに逃げます。

その後半 3 年半に、人類史上最も悲惨な事が起こりますが、不当占拠している悪の実体 “サタン・反キリスト・偽預言者” の悪の三位一体を完全に取り除き、この世界から悪を一掃するためにキリストが地上再臨します。その地上再臨をもって、艱難時代は終わるのです。

艱難時代の終わりを告げる地上再臨について、黙示録は何と語っているのか見ましょう。

### 黙示録 19 章

**11 また私は、天が開かれているのを見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている方は「確かで真実な方」と呼ばれ、義をもってさばき、戦いをされる。**

身代りに十字架に掛かるためではなく、義をもってさばき、戦いをされる。

この戦いがハルマゲドン戦争/世界最終戦争です。これはハルマゲドンで戦う戦争ではありません。ハルマゲドンは集合場所なんです。ハルマゲドンに集合した後、エルサレムからヨルダンのボツラにかけて、ずーっと戦争が始まっていくのです。

今日は 19 章後半を 3 つのポイントでお話しします。

#### 1) 地上再臨のタイミング

#### 2) 地上再臨のキリストに与えられている 3 つの名前の意味

聖書では名前は実体を表します。私たちの世界ではどうですか。“痩せている太 (ふとし) 君” とか、名前が必ずしも実態を表していない時がありますよね。聖書では名前は実体を表すので、キリストの 3 つの名前の意味を考えます。

#### 3) 世界最終戦争の結末

### 1. 地上再臨のタイミング

**11 天が開かれているのを見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている方は義をもってさばき、戦いをされる。**

開かれた天から、白い馬に乗ったキリストが戦うために下りて来られた。これが地上再臨です。なぜここで、天が開かれているのか。

地上再臨が起こるためには、2 つの条件が揃わないとダメなんです。

#### 条件 1. ユダヤ人が民族的スケールで国家的罪の告白をする。

ユダヤ人が神に対して負っている国家的罪とは、イエス・キリストを拒否して来たことです。

「イエスなんか神じゃない。メシアじゃない。救い主じゃない」と拒否しているのですが、実はイエスこそがユダヤ人のためのメシア/救い主であった。

「それなのに我々は拒否して来た。それは罪です」と明確に悔い改めて、罪の告白をする。

皆さん、イライラした時のストレス解消法って何ですか。○○さんは？「寝る！」素晴らしい。

でも、今はやめてください。起きててくださいね。

家内は時々「家にサンドバッグ買わへん？」とか言うんですよ。買ってもそんなん、どこに吊るすのと思うんですけど、サンドバッグに「オーッ！」とか言いながら。怖いなぁと思いながら。

イライラした時、サンドバッグならいいけど、公共物に当たるのはダメですよ。

イライラしたから、全然知らない人の家の窓ガラスをパンと割ったとか、これは罪ですよ。

イライラしたから犬を蹴った。これはもっと悪いと思います。ガラスは痛みを感じひんけど、犬は生き物ですから。ムシャクシャしたからと親を蹴ったら、もっと悪いと思います。つまり、ムシャクシャして何か危害を加える時、だれに対してやったかによって重さが違う。物にやったのか。生き物にやったのか。自分を育ててくれた親に対して暴力を振るったのか。同じ蹴っ飛ばすという行為であっても、だれに対してなのかによって、その重さが変わります。

人間が犯すことのできる一番悪い罪は何でしょうか。人が関わることができる最も偉大な存在、私たちをお造りになった創造主なる神についての罪なんですね。創造主なる神が、人となってこの世界に来てくださった救い主。「そんな救い主は要らない。彼は救い主ではない」と拒否して来たことを悔い改める。

## 条件 2. 悔い改めて、この救い主に懇願する。

その時、彼らの懇願に応じてキリストが地上再臨する、と旧約聖書のあちこちに書いてあるんです。それについては 34 回までに何度も言っているので、バックナンバーをご覧ください。

イスラエルは艱難時代中間に滅んでいます。イスラエルの地にユダヤ人はほとんどいません。皆ヨルダンのペトラに避難してるんです。

避難しているその地区を反キリストの軍隊が完全包囲した時、彼らは懇願します。

「メシアよ、なぜ私たちはこんなに酷いことになったのでしょうか。ユダヤ民族はどこから選択を間違ったのでしょうか。」

艱難時代の終わりの終わりのの方に来た時、新約聖書のヨハネの黙示録の預言が細部に至るまでことごとく成就しているのを見た時、イエスこそメシアであることを認めざるを得なくなります。反キリストの軍隊に完全包囲されている状態で「メシアよ、助けてください！」その叫びに応じて、メシアが反キリストの軍隊を叩きます。そのことがあったので、ここで地上再臨が起こっているんですね。

## 2. 地上再臨のキリストに与えられている 3 つの名前の意味

① 12 その目は燃える炎のようであり、その頭には多くの王冠があり、ご自分のほかはだれも知らない名が記されていた。

1 つ目の名前：ご自分のほかはだれも知らない名前

今はもう藤井時代ですが、昔 将棋の名人と囲碁の名人が（名前は忘れたんですが）、文芸春秋の主催かなんかで対談したんです。その対談で司会者が「将棋の神様がいたとします。将棋の名人、あなたの将棋の理解は、神の能力を 100 としたら何パーセントくらいですか。」「囲碁の神様がいたとします。囲碁の名人、あなたの囲碁の理解は、神の能力を 100 としたら何パーセントくらいですか。」それぞれ紙に書いて、イチニのサンで開けたら同じ数字でした。5%。100 点満点で言うと 5 点。名人なのでその時の最高水準の実力があるのですが、「あまりにも奥が深くて、我々は 5% くらいしか分からない」と言ったのを、この箇所を読みながら思い出したんです。

どういうことか。私はクリスチャンだからキリストのことを知っています。

知っているからこそ、皆さんに紹介できるんです。

だけど、知っているということと、知り尽くしているということは別だと思っんですね。

私はキリストの愛を知っています。でも「キリストの愛がどんなに大きいかを知り尽くしているんですか」と言われたら、絶対そんなことはないです。

私はキリストの救いの素晴らしさを知っています。でも「キリストの救いの素晴らしさを知り尽くしているんですか」と言われたら、まだまだ。私が知っているようなレベルじゃないと思います。

私はキリストの赦しの深さを知っています。でも「キリストの赦しの深さがどんなに深いかを知り尽くしているんですか」と言われたら、まだまだです。

知っているということと、知り尽くしているということは別ですよ。最低限しか知らない。

ご自分のほかはだれも知らない名。キリストの本質は神としての本質なので、神以外は分からない。これは受肉される前の永遠の昔に、天において持っておられたキリストの本性（ほんせい）ですね。それを表している名前です。だれも知らない。ご自分のほかはだれも知らないご性質です。

## ②13 その方は血に染まった衣をまとい、その名は「神のことば」と呼ばれていた。

2つ目の名前：神のことば

その方（地上再臨のキリスト）は血に染まった衣をまとっている。

この血はキリストが十字架で流された血ではなく、敵を踏みつけた時の返り血です。

エルサレムに地上再臨される前に、既に血に染まっているのはなぜか。

実は、最初に地上再臨されるのはエルサレムではなく、ユダヤ人たちが避難しているヨルダンのペトラ/ボツラなんです。そこで反キリストの軍隊を踏み潰す。その時の返り血。

なので、ここで血に染まった衣と書いてあるんです。確認しておきます。

### イザヤ書 63 章

**1 「エドムから来るこの方はだれだろう。ボツラから深紅の衣を着て来る方は。その装いには威光があり、大いなる力をもって進んで来る。」 「わたしは正義をもって語り、救いをもたらす大いなる者。」**

エドムは現ヨルダン。ボツラはエドムの首都で、今はペトラと呼ばれています。

ボツラから深紅の衣を着て来る方、ヨルダンから真っ赤に染まった衣を着てやって来る方がいる。

この方はいったいだれだ？

「わたしは正義をもって語り、救いをもたらす大いなる者。」 地上再臨のキリストです。

**2 「なぜ、あなたの装いは赤く、衣はぶどう踏みをする者のようなのですか。」**

**3 「わたしはひとりでぶどう踏みをした。諸国の民のうちで、事をともにする者はだれもいなかった。わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまった。」**

これがエドム（ヨルダン）のボツラ（ペトラ）での、地上再臨の第一陣の戦いです。

その時の返り血で真っ赤になった姿でエルサレムに向かわれる。

黙示録 19:13 その名は「神のことば」と呼ばれていた。

これは初臨のキリストの使命を表していることばだと思います。

まだ 30 代の頃、ある地方の集会にお招きを受けました。学生時代から親しくしていた女性のクリスチャンがいたのですが、お父さんが頑固で中々集会に来てくれない。今回は拝み倒して…クリスチャンが拝み倒して…「来てちょうだい」と頼み込んで。お父さんは警察署長なんですよ。だからといって、別に恐れる必要はないんですけどね。「そんな所には行けん！」という考えを持っておられて、初めて集会に来てくださったんです。オフの日にも拘わらずちゃんとスーツを着て来られて、私が思い描いていた“怖い”というのではなく、何とも言えない柔和な、話しの分かりそうな方でした。

メッセージが終わってすぐにご挨拶をして、色々話が弾んで、「キリスト教の話聞くまでは、そんな宗教の話…と思っていたけど、実際聞いてみたら学ぶところがたくさんあったし、こんな話は非常に貴重だと思う。高原さん、頑張ってください」と励ましてくださったんです。私はすっかり気を良くして、30 分ほど会話してお別れしたのですが、別れ際に「明日も集会があるので、よろしかったらいらしてください。」「都合見ないと分かりませんが、できるだけ来させてもらいます。」

翌日、娘さんだけが来たんです。「家に帰ってからもう大変。高原さんの悪口。『なんやアイツは。こっちは忙しいのに、いつまでもダラダラ話しやがって。非常識だ！話が終わったらすぐに解放すべきだ！なんだ、あの男は！』って。」こけおろしというかね。私はあまりのショックで、もう頭真っ白になって。不愉快そうに聞いててプイと怒って非難されたら、「そりゃそうやろな。何となく分かってますわ」なんですけど、対面の時は絶賛発売中！みたいな感じで「この話は中々素晴らしい」とか言うという、いなくなった所で「なんや、アイツは。自分が言いたいこと終わったら、はよ帰せ！」みたいな。「父は二度と集会に行かないと言ってます。」

私、そういう人が一番苦手なんです。言ってることと思ってることがあまりにも違い過ぎる人。というか、人当たりはいいんだけど、決して本音を見せてくれない人と話するのは難しいですね。本当に聞きたいと思っていることだと私は思って、その質問に本当に知っていることとお話するのですが、実は聞いている段階で全然聞きたいと思っていなかったら、「コイツの説明長いなあ」ってなるじゃないですか。

言葉って、心から乖離したら単なる記号ですよ。思っていることと言っていることが食い違っている人と話しても、人格的交流を本当にしたことにはならないと思うんですね。ただ記号の交換やっただけや。本心で思っていることを言ってくれたら、私もその本心を受け止めて「こうですねー」と言うことができるんですが。でも人間は、中々それが難しい時がありますね。

私は正直、そういう人が一番苦手です。というのは、いちいち人の心を読まないようにしているからです。単純に、もう額面通りそのまま信じて言うようにしているので、皆さん、そのように付き合ってください。私をあんまり試さないでほしいんです。最近、試されてばかりやから。

でも、[神のことば](#)は神の心と乖離してないんですね。イエスが「神は愛だ」と言われたら本当に愛ですよ。イエスが「あなたの罪は赦された」と言われたら、赦してないのにリップサービスで言ったのではなく、本当に赦したので「赦された」と言われたのです。イエスが「地上再臨はある」と言われたら本当にあるんです。

私の心は皆さんに見えません。私の心はどうしたら見えるようになるでしょうか。  
私が自分の心を言葉で言い表すことによってです。言葉で考えを伝えることによって、見えない私の魂が考えていることを知ることができます。  
同じように、神を目で見ることはできませんが、神の考えそのものである方が、人に分かることばとなってそれを説明し伝えるなら、神を知ることができるんですね。

黙示録で何回も出て来る「わたしはアルファであり、オメガである。」

これを日本語的に言うと「わたしは“あ”であり、“ん”である。」

「わたしはAであり、Zである。」つまり、その途中の言葉が全部入っているんです。

英語の単語はアルファベットで全部書き表すことができるし、日本語の単語も五十音で必ず書き表すことができるように、神の考えのすべては、神のことばであるイエス・キリストによって完璧に表すことができます。神のことばとなってこの世界に來られたのは、初臨のキリストの目的でした。そして、この方は今も変わらず、神のことばそのものです。

③15 この方の口からは、諸国の民を打つために鋭い剣が出ていた。鉄の杖で彼らを牧するのは、この方である。また、全能者なる神の激しい憤りのぶどうの踏み場を踏まれるのは、この方である。

16 その衣と、ものところには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

3つ目の名前：王の王、主の主

艱難時代、人々は王でない者を王にしていました。王にしてはならないサタンを王とし、主としてはならない反キリストを自分の主としてついて行きました。

しかし、神への反逆に加担して行くあり方に対して「本物の王・本物の主は、わたしではないか。」キリストは悪に不当占拠されたこの世界から、その勢力を一掃するために地上再臨されるのです。

もちろん、サタン・反キリスト・偽預言者の悪の三位一体とそれに従う人々は、「王の王、主の主」を主張するキリストとバトルを繰り広げ、何とかしてキリストの支配をくい止めようと最後の抵抗をします。これが世界最終戦争です。

さて、この戦争の前に、御使いが呼びかけているところを説明します。

17 また私（ヨハネ）は、一人の御使いが太陽の中に立っているのを見た。彼は大声で叫び、中天（ちゅうてん）を飛んでいるすべての鳥たちに言った。「さあ、神の大宴会に集まれ。」

太陽の中に立っているって…。太陽の表面温度 6000℃。これ、どないするん。

ヨハネが地上から太陽を見た時、太陽を背景にして、ちょうど真ん中に御使いが立っているという光景だと思います。

私たちは太陽をじーっと直視できませんよね。網膜が焼けてしまう。

だけどヨハネは、一人の御使いが太陽の中に立っているのを見た。なぜ見れたのか。

実は艱難時代後半、世界は暗いんです。艱難時代の世界は4段階で段々暗くなっていきます。

ここは艱難時代の最終日なので昼なのに夜。太陽と言っても、スモークがいっぱい掛かっている。

肉眼で月を直視するように太陽を見ることができた。その太陽の真ん中に御使いが立っている、ように見えた。

**17** 彼は大声で叫び、中天を飛んでいるすべての鳥たちに言った。「さあ、神の大宴会に集まれ。  
**18** 王たちの肉、千人隊長の肉、力ある者たちの肉、馬とそれに乗っている者たちの肉、すべての自由人と奴隷たち、また小さい者や大きい者たちの肉を食べよ。」

「今から大量の肉が出て来るから、世界中の鳥たちよ、エルサレムに集まりなさい。」  
死体のある所にハゲタカが集まるように、世界中の鳥が招集される。

そんな状況の中で最後の決戦。

**19** また私は、獣（反キリスト）と地の王たちとその軍勢が集まって、馬に乗る方（地上再臨のキリスト）とその軍勢に戦いを挑むのを見た。

最後の決戦では2つの軍勢がいます。

A. サタンの陣営→反キリストと地の王たちとその軍勢。

B. 地上再臨のキリストの陣営→**14** 天の軍勢は白くきよい亜麻布を着て、白い馬に乗って彼に従っていた。

Bのキリストに従う白くきよい亜麻布を着ている軍勢には、2つのグループがあります。  
それは教会と天の御使いたち。キリストはこの2つに従えて最後の決戦に臨みます。

①私たち（携挙されている教会）

**8** 花嫁（携挙された教会）は、輝くきよい亜麻布をまとうことが許された。

**14** 天の軍勢は白くきよい亜麻布を着て、

コスチュームを見ると、これは天の住民たち。教会をはじめとする天の住民たちがキリストの軍勢に加わっている。

②御使いたち

**マタイ 16:27** 人の子は、やがて父の栄光を帯びて御使いたちとともに来ます。

これはキリストの地上再臨。1人で来るのではなく御使いたちとともに来ます。

では、キリストが用いる武器は何でしょうか。

**黙示録 19 章**

**15** この方の口からは、諸国の民を打つために鋭い剣が出ていた。鉄の杖で彼らを牧するのは、この方である。また、全能者なる神の激しい憤りのぶどうの踏み場を踏まれるのは、この方である。

鋭い剣は比喻です。口から出ている鋭い剣は、キリストの口から発せられるみことば。

みことばが武器になる。再臨のキリストは手に武器を持って悪の軍勢と戦う必要はありません。  
ただ言葉を発するだけで十分。

福音書に、キリストが荒れ狂う湖に向かって「黙れ。静まれ。」すると、一発で凧になりました。  
ある人に住みついている悪霊の集団に「行け。」すると、2000匹の豚に乗り移って彼は解放された。  
キリストの言葉には有無を言わさぬ、問答無用でその言葉に屈服させる権威・力があります。

特にこの時は、王の王、主の主として何と言われたのか。「滅びよ。」いいえ。

聖書をよーく読むと、ひと言も語っていない可能性があるんです。

## 第二テサロニケ 2 章

**8** その時（地上再臨の時）になると、不法の者（反キリスト）が現れますが、主イエスは彼を御口の息をもって殺し、来臨の輝きをもって滅ぼされます。

御口のことばをもって殺すのではない。主イエスは彼を御口の息をもって殺し。

「ふっ」息を吹きかけた瞬間、エルサレムに集まって来た何千万の大軍隊はミンチに変わっている。私は黙示録の中でこの箇所が一番恐ろしいです。

キリストは「滅びよ！」と声を荒げることなく、ただ、息をもって殺し、来臨の輝きをもって（姿を見せるだけで）滅ぼされます。その瞬間、反キリストの大軍団がただの肉片になっている。

## 黙示録 19 章

**19** また私は、獣（反キリスト）と地の王たちとその軍勢が集まって、馬に乗る方（地上再臨のキリスト）とその軍勢に戦いを挑むのを見た。

どんなバトルが繰り広げられるのか。反キリストはキリストの攻撃をかわしたり、やり返したり、渡り合ったりするのか。そういうことが一切書かれてない。

**20** しかし、獣は捕らえられた。

しかし、は正確な訳ではありません。ギリシア語はカイ。“そして”。

キリストは王の王、主の主として姿を現された。そして、獣は捕らえられた。淡々と。

五分五分の力で押したり押し返されたり、丁々発止でようやくキリストが勝利した、というのではない。息を「ふっ」と吹きかけただけで反キリスト軍が全滅し、辺り一面、鳥が食らうためのミンチ状態になった。そして、反キリストは為す術もなく簡単に捕縛された。

**20** すると（そして）、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた者たちと、獣の像を拝む者たちを惑わした偽預言者も、獣とともに捕らえられた。この両者は生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。

硫黄の燃える火の池は、罪を持ったまま死んだ人間が最終的に行く、死後の世界の永久の裁きの場所。硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。人類の中でそこに最初に入るのが反キリストと偽預言者。サタンがそこに入るのは、この時から千年後です。

**21** 残りの者たちは、馬に乗っている方の口から出る剣（みことば）によって殺され、すべての鳥が彼らの肉を飽きるほど食べた。

非常に残酷のように見えますが、これは反キリストに従って行く者たちには裁きでも、その悪の勢力によって蹂躪されている者たちには救いなんです。もう二度と虐待や拷問や殺されることはない。この悪の根本原因・患部をえぐり取ってこの世界から一掃し、ゲヘナに投げ込んだ。そしてこの後、サタンを底知れぬ穴に閉じ込める展開になるのです。

## 最後にヨハネ 10 章

**37** もしわたし（イエス・キリスト）が、わたしの父のみわざを行っていないのなら、わたしを信じ

てはなりません。

**38** しかし、行っているのなら、たとえわたしが信じられなくても、わたしのわざを信じなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしも父にすることを、あなたがたが知り、また深く理解するようになるためです。

この黙示録を 35 回聞いてくださっている方、また、今日生まれて初めて集会に来られて「いきなり 35 回目でしょう分からん」という方もおられるかもしれません。

ずっと聞いてくださっているという前提でお話しするなら、聖書の預言がいかに関部に至るまで成就して来たか、を見てくださったのではないかと思います。

ある方には「神を信じる・キリストを信じる」というのはすごく難しいこと。

2000 年前の人のことを、目に見えない神をどうやって信じ、信頼したらいいのか。

信頼するにはその根拠が必要ではないか。根拠はどこにあるのか。

わたし（キリスト）が神のわざを行っているのなら、たとえわたしが信じられなくても、わたしのわざを信じなさい。

文字通りの解釈は奇跡のことですが、敢えて適用します。

キリストが語られた預言の言葉も神のわざと考えると、キリストを信じられなくても、その預言の言葉が次々と細部に至るまですべて成就しているなら、この方の言葉は真実である。

神の言葉である。このようなことを語るができるのは神以外にはおられない。

そう結論付けることができるのではないのでしょうか。私はそのようにして信じたんです。

先ほどの地上再臨の結末を見る時、「このキリストを敵に回すことほど恐ろしいことはない」と思いました。同時に「このキリストに守られることほど頼もしいことはない」とも思ったんです。

人類はキリストをどうするのか。イエス時代のローマ総督ピラトは、イエスを目の前にして人々に言いました。「では、キリストと言われているイエスを私はどうしようか。」これです。

人類の、私の永遠を決める質問はこれ。「キリストと言われているイエスを私はどうしようか。」

メシアとしてこの方の前にひざまずき、信頼して受け入れるのか。

今のユダヤ人たちのように「ノー」と言って切り捨てるのか。

信じるに足る根拠は、黙示録を通してふんだんに与えられていると思います。

神様は今、恵みの時代にいる私たちに、「ぜひ祝福の中に入って欲しい」と懇願するように語っておられます。ぜひイエス・キリストを信じてください。心からお勧めします。

^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^

\* 引用 ; 新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社